



2022年4月27日

## 今こそ反戦歌を！〈1〉『戦争は知らない』

松岡利康

ウクライナの戦火を日々見ると自然に、かつてよく聴いた反戦歌を思い出します。

まずは『戦争は知らない』。

よく『戦争を知らない子どもたち』と間違えられますが、違います。『戦争は知らない』は、それよりも先にベトナム戦争真っ盛りの1967年にシングルカットされ、発売されます。作詞は、演劇の世界に新たな境地を開拓した劇団『天井桟敷』の寺山修司、歌は『たそがれの御堂筋』で有名な坂本スミ子(古い!)。意外な組み合わせです。寺山修司は、いわゆるアングラ演劇の教祖ともされる人物ですが、彼がこのように純な歌詞を書いたのも意外ですし、また坂本スミ子に歌わせたのも意外、歌謡曲として売り出そうとしたのでしょうか。

その後、ザ・フォーク・クルセダーズ(略称フォークル)が歌いますが、こちらがポピュラーです。いわば「反戦フォーク」として知られています。私は坂本スミ子が歌ったのを知りませんでした。『この人に聞きたい青春時代〈2〉』のインタビューの際に、フォークルのメンバーだった端田宣彦(はしだのりひこ)さんから直接お聞きしました。



[左上]坂本スミ子『戦争は知らない』(1967年1月)と[左下]ザ・フォーク・クルセダーズ『戦争は知らない』(1968年11月)のEPレコードジャケット。[右]『この人に聞きたい青春時代2』(2001年鹿砦社)

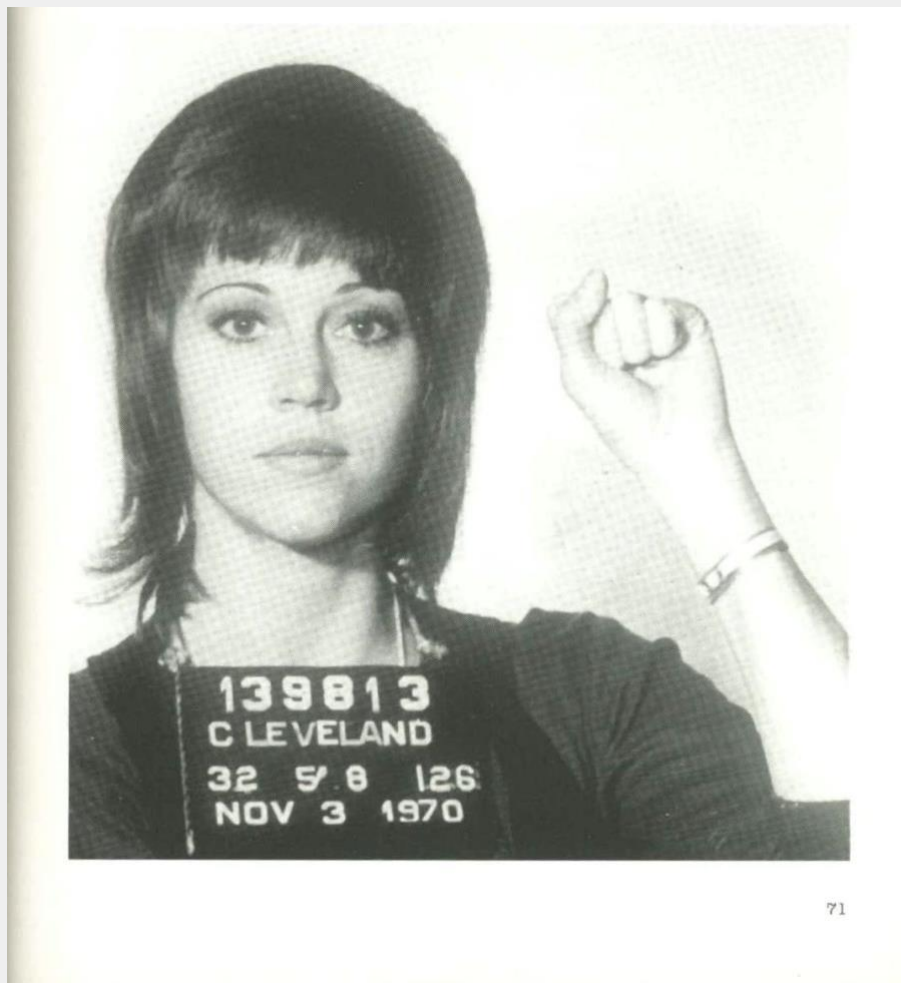
◎[参考動画]ザ・フォーク・クルセダーズ 戦争は知らない

<https://www.youtube.com/watch?v=NqKt4P2hKUM> (1968年11月10日発売／東芝 Capitol CP-1035) 作詞: 寺山修司／作曲: 加藤ヒロシ／編曲: 青木望

♪野に咲く花の 名前は知らない  
 だけど 野に咲く花が好き  
 帽子にいっぱい 摘みゆけば  
 なぜか涙が 涙が出るの  
 戦争の日を 何も知らない  
 だけど私に 父はいない  
 父を想えば あゝ荒野に  
 赤い夕陽が 夕陽が沈む

戦さで死んだ 悲しい父さん  
私は あなたの娘です  
20年後の この故郷で  
明日お嫁に お嫁に行くの  
見ていてください 遙かな父さん  
いわし雲飛ぶ 空の下  
戦さ知らずに 20歳になって  
嫁いで母に 母になるの  
野に咲く花の 名前は知らない  
だけど 野に咲く花が好き  
帽子にいっぱい 摘みゆけば  
なぜか涙が 涙が出るの

なお、下の画像は 1970 年に反戦活動で逮捕され抗議の意志表示をする女優ジェーン・フォンダ（鹿砦社刊『マグショット』より）。ジェーン・フォンダはベ平連の招請で来日し、今はなき同志社大学学生会館ホールで講演、ミーハーな私も拝見させていただきました。ものすごく輝いていた印象が残っています。



1970年、反戦活動で逮捕され抗議の意志表示をする女優ジェーン・フォンダ(鹿砦社刊『マグショット』より)



2022年5月6日

## 今こそ反戦歌を！〈2〉ネーネーズ『平和の琉歌(りゅうか)』 松岡利康

先に反戦歌として『戦争は知らない』について記述したところ予想以上の反響がありました。私たちの世代は若い頃、日常的に反戦歌に触れてきました。なので反戦歌といってもべつに違和感はありません。最近の若い人たちにとっては、なにかしら説教くさいように感じられるかもしれませんが.....。

今回は、もうすぐ沖縄返還(併合)50年ということで、沖縄についての反戦歌を探り上げてみたいと思います。

沖縄が、先の大戦の最終決戦の場で、大きな犠牲を強いられたこともあるからか、戦後、沖縄戦の真相や戦後も続くアメリカ支配が明らかになり、それを真剣に学んだ、主に「本土」のミュージシャンによって反戦・非戦の想いを込めた名曲が多く作られました。すぐに思い出すだけでも、宮沢和史『島唄』、森山良子『さとうきび畑』、森山が作詞した『涙そうそう』、阿木耀子作詞・宇崎竜童作曲『沖縄ベイ・ブルース』『余所(よそ)の人』.....。

森山良子など、デビューの頃は「日本のジョーン・バエズ」などと言われながら、当時は、レコード会社の営業策もあったのか、いわゆる「カレッジ・フォーク」で、反戦歌などは歌っていなかった印象が強いです(が、前記の『さとうきび畑』を1969年発売のアルバムに収録しています)。

『沖縄ベイ・ブルース』『余所の人』はネーネーズが歌っていますが、ネーネーズの師匠である知名定男先生と宇崎竜童さんとの交友から楽曲の提供を受けたものと(私なりに)推察しています。知名先生に再会する機会があれば聞いてみたいと思います。

以前、高校の同級生・東濱弘憲君(出生と育ちは熊本ですが親御さんは与那国島出身)がライフワークとして熊本で始めた島唄野外ライブ「琉球の風～島から島へ」に宇崎さんは知名先生の電話一本で快く何度も来演いただいたことからわかります。熊本は沖縄との繋がりが強く『熊本節』という歌があるほどです。一時は30万人余りの沖縄人が熊本にいたとも聞きました。それにしても、沖縄民謡の大家・知名先生とロック界の大御所・宇崎さんとの意外な関係、人と人の縁とは不思議なものです。



宮沢和史さん

ところで、ネーネーズが歌っている楽曲に『平和の琉歌』があります。これは、なんとサザンオールスターズの桑田佳祐が作詞・作曲しています(1996年)。前回の『戦争は知らない』の作詞がアングラ演劇の嚆矢・寺山修司で、これを最初に歌ったのが『たそがれの御堂筋』という歌謡曲で有名な坂本スミ子だったのと同様に意外です。しかし桑田の父親は満州戦線で戦い帰還、日頃からその体験を桑田に語っていたそうで、桑田の非戦意識はそこで培われたのかもしれませんが。在りし日の筑紫哲也の『NEWS23』のエンディングソングとして流されていたものです。筑紫哲也は沖縄フリークとして知られ、他にもネーネーズの代表作『黄金(こがね)の花』(岡本おさみ作詞、知名定男作曲)も流しています。



宇崎竜童さん



知名定男さん

岡本おさみは、森進一が歌いレコード大賞を獲った『襟裳岬』も作詞しデビュー間もない頃の吉田拓郎に多く詞を提供しています。岡本おさみは他にも『山河、今は遠く』という曲もネーネーズに提

供しており、これも知名先生が作曲し知名先生は「団塊世代への応援歌」と仰っています。いい歌です。ネーネーズには、そうしたいい歌が多いのに、一般にはさほど評価されていないことは残念です。

さらに意外なことに、一番、二番は桑田が作詞していますが、三番を知名先生が作詞されています。

サザンは、最初に歌ったイベントの映像と共にアルバムに収録し、シングルカットもしているようですが、全く記憶にないので、さほどヒットはしていないと思われます。サザン版では一番、二番のみで三番はありません。ここでは一番～三番までをフルで掲載しておきます。

【画像のメンバーは現在、上原渚以外は入れ替わっています。現在のメンバーでの『平和の琉歌』は未見です。】



ネーネーズとHY





◎[参考動画]『平和への琉歌』[https://www.youtube.com/watch?v=cyk0\\_AO\\_osA](https://www.youtube.com/watch?v=cyk0_AO_osA)

ネーネーズ『Live in TOKYO～月に歌う』ライブ Digest

—

この国が平和だとだれが決めたの  
人の涙も渴かぬうちに  
アメリカの傘の下  
夢も見ました民を見捨てた戦争(いくさ)の果てに  
蒼いお月様が泣いております  
忘れられないこともあります  
愛を植えましょう この島へ  
傷の癒えない人々へ  
語り継がれていくために

二

この国が平和だと誰が決めたの  
汚れ我が身の罪ほろぼしに  
人として生きるのを何故にこぼむの  
隣り合わせの軍人さんよ  
蒼いお月様が泣いております  
未だ終わらぬ過去があります  
愛を植えましょう この島へ  
歌を忘れぬ人々へ  
いつか花咲くその日まで

三

御月前たり泣ちや呉みそな  
やがて笑ゆる節んあいびさ  
情け知らさな この島の  
歌やこの島の暮らしさみ  
いつか咲かする愛の花

[読み方]うちちょーめーたりなちやくいみそな やがていわらゆるしちんあいびさ なさきしらさなく  
ぬしまぬ うたやくぬしまぬくらしさみ いちかさかする あいぬはな  
ネーネーズの熱いファンと思われる長澤靖浩さんという方は次のように「大和ことば」に訳されて  
います。

「お月様よ もしもし 泣くのはやめてください やがて笑える季節がきっとありますよ 情けをしら  
せたいものだ この島の 歌こそこの島の暮らしなのだ いつか咲かせよう 愛の花を」



ネーネーズ 6 代目メンバーと松岡

◎[\[リンク\]](#)今こそ反戦歌を！

◎[\[リンク\]](#)琉球の風～島から島へ～

# 島唄の風になれ!

「琉球の風」と東濱弘憲

「琉球の風」実行委員会



『島唄よ、風になれ！「琉球の風」と東濱弘憲』特別限定保存版（「琉球の風」実行委員会＝編）

2022年6月23日

## 今こそ反戦歌を！〈3〉PP&M 忌野清志郎『花はどこへ行った』 松岡利康

当初電撃戦で一瞬にしてロシアの勝利と思われたウクライナ危機が長引いています。電撃戦どころか、ウクライナの予想外の抵抗により(ウクライナとロシアの歴史を見れば、決して「予想外」ではないかもしれませんが)、もう4カ月も続き、長期化する兆しです。ウクライナの予想外の抵抗でロシア軍はなりふり構わず攻撃しウクライナの都市や大地を焦土化し泥沼化しています。かつてのベトナム戦争もそうだったのでしょか。

1955年から20年続いたベトナム戦争は60年代には泥沼化し、同時に米国のみならず全世界的なベトナム反戦運動が拡がりました。あの頃の話が「遠い昔の物語」(忌野清志郎の詞)ではなかったことが今年になって甦ってきました。ベトナム戦争は、私が幼少の頃に始まり、終わったのは大学を出る頃(1975年)でした。時の経過と生活に追われ長らく忘れていた悲惨な記憶が甦ってきました。

ベトナム反戦の叫びは多くのメッセージソングを生み出しました。

ピート・シーガーが作った『花はどこへ行った(Where Have All the Flowers Gone?)』もその代表作の一つでした。ベトナム戦争が始まった1955年に作られ、1962年にPP&M(Peter, Paul & Mary)が歌い大ヒットします。日本ではPP&M版が一番ポピュラーのようですが、このほか、キングストン・トリオ、ブラザーズフォー、ジョーン・バエズらが歌っています。曲の遠源はウクライナ民謡(子守唄)ともいわれますが、なにか因縁を感じさせます。

しばらくして日本にも輸入され、「反戦フォーク」として当時の若者の間でヒットし耳にタコが出来るほど聴き歌いました。私もそうでした。また、私と同じ歳の忌野清志郎(故人)もそうだったのでしょか、みずから訳し歌っています。激動の時代を共に過ごし、時に原発問題とか社会問題にコミットする清志郎の想いがあるような気がします。

今、ウクライナでの戦火に触発さ加藤登紀子、MISIAらが、この曲を歌い始めました。加藤登紀子はともかく、ライブで『君が代』を歌うようなMISHAがこの曲を歌うのには違和感がありますが……。登紀子さんには、この際、今は全くと言っていいほど歌わなくなった『牢獄の炎』とか『ゲバラ・アーミオ』とかも歌ってほしいですけどね。

日本でも多くの歌手がカバーしていますが、異色なところでは、古くはザ・ピーナッツや、今ではミズチルら、数年前、フォーククルセダーズが再結成された際のコンサートでは、わがネーネーズも一緒に歌っています。



PP&M(Peter, Paul & Mary)



忌野清志郎

ベトナム戦争が始まってから 70 年近く経ち、終わってからも 50 年近く経ちますが、ウクライナ危機に見られるように、残念ながら、決して「遠い昔の物語」ではなくなりました。この曲は、ベトナム戦争終結とともに次第に歌われなくなっていきました。今後ウクライナ危機のような戦争が起きる

たびに歌われる名曲でしょうが、ウクライナに一日も早く平和が戻り、「遠い昔の物語」として、この曲が歌われないようになることを心より祈ります。

**『Where Have All the Flowers Gone?』**

**作詞・作曲：Pete Seeger、Joe Hickerson**

<https://www.youtube.com/watch?v=bOTCa1F3F0c&list=RDbOTCa1F3F0c&index=2>

Where have all the flowers gone  
Long time passing?  
Where have all the flowers gone  
Long time ago?  
Where have all the flowers gone?  
Young girls have picked them everyone  
Oh, when will they ever learn?  
Oh, when will they ever learn?  
Where have all the young girls gone  
Long time passing?  
Where have all the young girls gone  
Long time ago?  
Where have all the young girls gone?  
Gone for husbands everyone  
Oh, when will they ever learn?  
Oh, when will they ever learn?  
Where have all the husbands gone  
Long time passing?  
Where have all the husbands gone  
Long time ago?  
Where have all the husbands gone?  
Gone for soldiers everyone  
Oh, when will they ever learn?  
Oh, when will they ever learn?  
Where have all the soldiers gone  
Long time passing?  
Where have all the soldiers gone  
Long time ago?  
Where have all the soldiers gone?

Gone to graveyards, everyone  
Oh, when will they ever learn?  
Oh, when will they ever learn?  
Where have all the graveyards gone  
Long time passing?  
Where have all the graveyards gone  
Long time ago?  
Where have all the graveyards gone?  
Gone to flowers, everyone  
Oh, when will they ever learn?  
Oh, when will they ever learn?  
Where have all the graveyards gone  
Long time passing?  
Where have all the graveyards gone  
Long time ago?  
Where have all the graveyards gone?  
Gone to flowers, everyone  
Oh, when will they ever learn?  
Oh, when will they ever lean?

『花はどこへ行った』

忌野清志郎詞、ピート・シーガー作曲

<https://www.youtube.com/watch?v=2axZ53ZVC4>

野に咲く花は どこへ行った  
遠い昔の物語  
野に咲く花は 少女の胸に  
そっと優しく抱かれていた  
可愛い少女は どこへ行った  
遠い昔の物語  
可愛い少女は 大人になって  
恋もして ある若者に抱かれていた  
その若者は どこへ行った  
遠い昔の物語  
その若者は 兵隊にとられて  
戦場の炎に抱かれてしまった

その若者は どうなった  
その戦場で どうなった  
その若者は死んでしまった  
小さなお墓に埋められた  
小さなお墓は どうなった  
長い月日が 流れた  
お墓のまわりに花が咲いて  
そっと優しく抱かれていた  
その咲く花は どこへ行った  
遠い昔の物語  
その咲く花は 少女の胸に  
そっと優しく 抱かれていた  
野に咲く花は どこへ行った  
遠い昔の物語  
野に咲く花は 少女の胸に  
そっと優しく抱かれていた

©[リンク]今こそ反戦歌を！ <http://www.rokusaisha.com/wp/?cat=103>